

## 米重文樹教授業績目録

平成 6 年 4 月から平成 15 年 3 月まで本学部に在職していた私の「退官記念」を冠した本号の性格からすれば、この 9 年間における業績のみを記すのが本筋であろうが、このようななかたちでまとめるのは私にとってこれが最初で最後であるので、これまでのものも含めて列挙することにし、それぞれについて概要を付した。業績のうち東京大学在職中に書いたものは番号を枠囲みにした。なお、発行年については個々の業績の刊行時の表記にそのまま従い、西暦表示への統一はしていない。

(平成 15 年 7 月 31 日記)

### 【編著書】

1. 『パスポート初級露和辞典』(単著) xi + 415pp 白水社 平成 6 年 3 月  
[ロシア語を学び始めた人でもすぐに活用できるようにカタカナ発音を付し、文法コラム、ミニ百科などを織り込んだ学習辞典。収録語数 7000、和露インデックス付(約 2500 語)]
2. 『文献目録・日本におけるスラヴ語学文学研究 1993-1998』 vi + 81pp 平成 10 年度文部科学研究費補助金研究成果報告書(代表者・米重文樹) 平成 11 年 3 月  
[日本国内の研究者(含むロシア人)を対象としたアンケート調査ならびに学術雑誌の検索を基に、スラヴ語学文学および文化・歴史に関する文献を分野・地域別に収録]
3. 『日露オーラルヒストリー・第 1 集』(共編) 日露オーラルヒストリーの会(代表・青山学院大教授木村明生) 351pp 平成 13 年 1 月  
[1920-40 年代にかけて様々な分野で日本とロシアに関わった人たちからの聞き取りをテキスト化したもの。第 1 集では日本人 8 名、ロシア人 3 名(旧満州出身・ロシア在住)を収録]
4. 「友好会話手本集(1739 年・サンクトペテルブルグ)」(翻刻・翻訳、共編) 平成 12・13 年度文部科学研究費補助金研究成果報告書『18 世紀薩摩方言における音節・音配列と語形式の研究』(研究代表者・岡山大学助教授江口泰生、研究協力者・米重文樹) pp.1-295 平成 14 年 1 月  
[18 世紀初めロシアに漂着した薩摩出身の少年ゴンザ(当時 12 歳)がその後ペテルブルグで A.ボグダーノフの指導の下に作成した露日会話集の翻刻と翻訳]

### 【分担執筆・編集協力】

1. 『博友社ロシア語辞典』(木村彰一他編、分担執筆) xvi + 1486pp 博友社 昭和 50 年 1 月  
[最重要語 400 のうち 54 語、重要語 5000 のうち 703 語を執筆]

- 2.『研究社露和辞典』(東郷正延他編, 編集協力) xviii + 2763pp 研究社 昭和 63 年  
9月  
[分担校閲ならびに執筆 (接頭辞, 前綴, 後綴, 言語学用語)]

### 【訳書】

- 1.『ロマーン・ヤーコブソン撰集・第 2 卷・言語と言語科学』(服部四郎編, 早田輝洋・長嶋善郎・米重文樹共訳) xx + 260pp 大修館書店 昭和 53 年 4 月  
[担当:「言語の記号と体系」, 「視覚記号と聴覚記号」, 「視覚記号と聴覚記号の関係について」,  
「首の振り方による Yes と No」, 「音楽学と言語学」, 「他のコミュニケーション体系との関係における言語」]
- 2.『A.A.レオンチエフ編・現代ソビエト心理言語学(上・下)』(米重文樹・森岡修一・桑野隆共訳) 上 236pp・下 220pp 明治図書 昭和 55 年 10 月  
[担当:まえがき, 第 1 部, 第 3 部 10~13 章]
- 3.『ロマーン・ヤーコブソン撰集・第 1 卷・言語の分析』(服部四郎編, 早田輝洋・長嶋善郎・米重文樹共訳) xx + 253pp 大修館書店 昭和 61 年 3 月  
[担当:「ロシア語動詞の構造について」, 「一般格理論への貢献」]
- 4.『構造的音韻論』(服部四郎編, 矢野通生・米重文樹・長嶋善郎・伊豆山敦子共訳) xxiii + 360pp 岩波書店 平成 8 年 2 月  
[担当:「音素の構造について」, 「音素問題の正しい提示のために」, 「MUFAXXAMA—アラビア語における『強化』音素」, 「ユーラシア言語連合の特徴づけに寄せて」, あとがき]

### 【教科書】

- 1.『生きたロシア語入門』(単著) 白水社 昭和 62 年 3 月  
[文法と会話の有機的な関連を通してロシア語の基礎修得を目的とした教科書]
- 2.『ロシア語・読本と練習』(米重文樹, リュドミーラ・ヤマダ共編) 白水社 平成 3 年 3 月  
[読解力養成と文法事項の復習的発展を目的とした教科書 (中級向け)]
- 3.『話すロシア語入門』(米重文樹・P.トマルキン共編) 白水社 平成 8 年 3 月  
[ロシア語会話の基礎を口頭練習中心に学ぶことを目的とした教科書]

### 【学術論文】(すべて単著)

- 1.「ロシア語文音調の基本的構造」『ロシア語ロシア文学研究』第 2 号 pp.61-75 日本ロシア文学会 昭和 45 年 10 月

- [ロシア語の yes-no 疑問文を中心にイントネーションの周波数分析を行い、文音調の基本的構造単位の抽出を試みた]
- 2.「直視と巨視—ロシア語のもつある特質について—」『ロシア・西欧・日本』 pp.755-767  
朝日出版社 昭和 51 年 2 月  
[「道」を意味する同義語を手がかりに、品詞の違いを越えて見られるロシア語の意味論的軸について考察した]
- 3.「内的対話としてのロシアーカンディンスキーとロシア語—」『思想』 1978 年 12 月号 pp.25-41 岩波書店 昭和 53 年 12 月  
[ロシア出身の画家カンディンスキーの絵画理論とロシア語アスペクトの意味世界との呼応関係について論じた]
- 4.「意味における継起性と同時性—ロシア語の『運動の動詞』について—」『言語の科学』 第 7 号 pp.97-131 東京言語研究所 昭和 54 年 3 月  
[ロシア語の『運動の動詞』についてインフォーマント調査を基に「定一不定」の対立関係の意味論的分析を行った]
- 5.「到来と通過—ロシア語における完了体の意味構造について—」『言語研究』 第 78 号 pp.55-84 日本言語学会 昭和 55 年 7 月  
[完了アスペクトの文法的意味を弁別特徴の観点から分析考察した]
- 6.「再考 в と на (1)~(7)」『パリヤーナ』 7 号~11 号 現代ロシア語社 昭和 56 年 4 月~9 月  
[前置詞 в と на についてその意味世界を考察提示した]
7. О семантическом изоморфизме на грамматическом и лексическом уровнях — на материале современного русского языка *Japanese Contributions to the ninth International Congress of Slavists* pp. 1-8 Association of Slavists Tokyo 昭和 58 年 3 月  
[文法レベルと語彙レベルに共通して見られる意味的同形性について、運動の動詞・動詞アスペクトを中心に、名詞「道」、前置詞 в と на も関連させて論じた]
- 8.「司馬遼太郎氏における『ロシアの特異性』—ユーラシア主義との接点—」『言語文化研究』 103 号 pp. 31-46 広島大学総合科学部 昭和 63 年 3 月  
[司馬遼太郎氏の『ロシアについて』において述べられている「ロシアの歴史的特異性」をユーラシア主義、特にトゥルベツコイの論考と比較対照し、その異同を論じた]
9. Видовые отношения в русских падежах — к функциональной семантике творительного падежа *Japanese Contributions to the tenth International Congress of Slavists* pp.1-10 Association of Slavists Tokyo 昭和 63 年 3 月  
[ロシア語の造格について構文の観点から機能分析を行い、その意味構造を論じた]
- 10.「背景と風景—合成名辞述語についての一考察—」『ロシア語ロシア文学研究』 第

- 20号 pp.1-13 日本ロシア文学会 昭和63年10月  
[名辞述語における主格一造格の対立について統語論的観点からその機能を分析考察した]
11. К семантике и употреблению наречий «сейчас» и «теперь» *Japanese Slavic and East European Studies* Vol.10 pp.31-43 日本スラブ・東欧学会 平成1年3月  
[「今」を意味する同義語について用法を分析し、その意味構造の違いを抽出した]
12. 「N.S.トゥルベツコイ『バベルの塔と言語混合』(訳述・解説) 『岡山大学言語学論叢』 第2号 pp.15-35 平成4年8月  
[トゥルベツコイの上記論文(『ユーラシア記録』第3号、1923年、パリ)の訳述、ならびにユーラシア主義に至る彼の思想道程についての考察]
13. 「精神の旅人—嶋野三郎(1)~(17)」 『窓』 92号~110号 ナウカ 平成7年3月~平成11年10月  
[明治の終わりに石川県派遣でロシアに留学、ロシア革命の年に帰国し満鉄に入社、以後生涯をロシア研究に生きた嶋野三郎の軌跡をまとめたもの：①『西欧文明と人類の将来』 ②ウラジオからモスクワ、そしてペトログラードへ ③「嗚呼春秋の十五年…」 ④ロシアからの絵葉書(上) ⑤ロシアからの絵葉書(下) ⑥ロシアを後にして ⑦『満鉄露和辞典』以前・以後(上) ⑧『満鉄露和辞典』以前・以後(下) ⑨深い流れの中で ⑩北一輝との出会い ⑪『所有と社会主義』 ⑫『日満共福主義』そして『共同事業の哲学』 ⑬二十年ノ御交情何ヲ以テ謝センヤ ⑭二・二六以後 ⑮ロシア哲学との対話 ⑯ワノフスキイとの十七年 ⑰永遠に転変する世界(最終回)]
14. 「アスペクトにおける主体と行為—ロシア語動詞の体についての一考察」 『言語学林1995-1996』 pp.475-485 三省堂 平成7年6月  
[ロシア語動詞のアスペクトについて、行為主体との関係の観点からその特質をテキストレベルで分析考察した]
15. Евразийство на Дальнем Востоке *Japanese Slavic and East European Studies* Vol.18 pp.11-34 日本スラブ・東欧学会 平成10年3月  
[20年代から40年代にかけての日本および満州におけるユーラシア主義の受容を、満鉄の嶋野三郎、ハルビン学院の中根錬二、亡命ロシア人ジャーナリストV.N.イワノフを通して、その歴史的意味を考察した]
16. 「イワノフとハルビンの『レーリヒ』」 『窓』 112号 pp.14-21 ナウカ 平成12年3月  
[ロシア出身で当時米国にいた画家レーリヒの満州訪問(1934年)について、ハルビンの亡命ロシア人ジャーナリストV.N.イワノフの著書『レーリヒ』(1935年)との関連において論じた]
17. 「日本におけるロシア語辞書の歴史(明治~平成)・辞書略年譜付」 『日本人とロシア語—日本におけるロシア語教育の歴史』 pp.338-357 日本ロシア文学会編 ナウカ

平成 12 年 10 月

[明治以降今日に至るまでの日本におけるロシア語辞書の歴史を時代状況と関連づけながらその流れを具体的にまとめ、辞書略年譜を付した]

### 【小論、書評、翻訳その他】

1. 「ことばの小箱 (1)~(24)」 昭和 48 年 7 月～昭和 50 年 6 月 『現代ロシア語』 88 号～111 号 現代ロシア語社

[同義語を中心とした意味用法の分析解説：(1)сейчас と теперь (2)мочь と уметь (3)стоять と лежать (その一) (4)стоять と лежать (その二) (5)разный と различный (6)名前について (7)тоже と также (8)高低・上下 (9)遠近 (10)много と многие (11) завод と фабрика (12)湿っぽい話 (13)ここ・そこ・あそこ (その一) (14)ここ・そこ・あそこ (その二) (15)ここ・そこ・あそこ (その三) (16)赤色考 (17)大きな化学!?(18)скоро と быстро (19)путь と дорога (その一) (20)путь と дорога (その二) (21)путь と дорога (その三) (22)стать と начать (23)なぜなぜ問答 (24)целый と весь]

2. 「ロシア語同義語・反義語辞典」 『ロシア語の辞書』 pp.48-50 ナウカ 昭和 55 年 3 月

[ロシア語の同義語・反義語辞典についての紹介と解説]

3. 「目が黒っぽくなる話」 『パリヤーナ』 6 号 pp.2-3 現代ロシア語社 昭和 56 年 3 月

[ロシア語のイディオム「目が黒くなる (глаза потемнели)」についての用法ノート]

4. 「N.ヤリンツォフ『ロシア人とロシア語』(1)~(5)」(翻訳) 『ベリヨーザ』 4 号～8 号 西日本ロシア語友の会 昭和 58 年 9 月～昭和 60 年 1 月

[1914 年ロンドン出版の同名書の抄訳、著者はロンドン在住のロシア人女性で英語で執筆したもの：(1)「楽しむ」と「幸せ」 (2)увлечение について (3)отзычивый と чуткий について (4)語順について (5)Не поминайте лихом!]

5. 「G.フルースロフ『ロシア語と日本語の比較対照研究について』」(翻訳) 『ベリヨーザ』 6 号～12 号 西日本ロシア語友の会 昭和 59 年 9 月～昭和 60 年 9 月  
[プーシキン・ロシア語研究所の G.フルースロフ氏の論文の翻訳・解説]

6. 「モスクワの食堂」 『ベリヨーザ』 6 号 pp.2-5 西日本ロシア語友の会 昭和 59 年 9 月

[モスクワ滞在中の「食生活」を大衆食堂を中心にレポートしたもの]

7. 「同じもの・違う表現」 『言語』 1986 年 5 月号 pp.80-81 大修館書店 昭和 61 年 5 月

[ロシア語と日本語の表現の異文化背景についてのエッセイ]

8. 「ロシア語における Limit の概念について」 『NIDABA』 16 号 pp.66-67 西日本言語学会 昭和 64 年 3 月

[講演要旨：ロシア語の完了アスペクト・与格・造格における Limit の概念について考察した]

9. 「ロシア語の風景(1)～(12)」 『NHK テレビロシア語講座』 1989 年 4・5 月号～1991 年 2・3 月号

[ロシア語の様々な表現・社会現象その他についてのエッセイ：(1)「人間そして家族」 (2)「誰の乾ぶどう？」 (3)「ヴァラジーミル・ヴィソツキー」 (4)「黄金の秋と食欲の秋」 (5)「トロイカとタクシー」 (6)「白いからす」 (7)「大西洋からウラルまで」 (8)「愛称について」 (9)「誰の罪か？」 (10)「**в**と **на**について」 (11)「完了体とこだわり」 (12)「チャイコフスキーの転居先」]

10. 「ユーラシアの予感と実現」 『言語』 1991 年 12 月号 pp.5-6 大修館書店 平成 3 年 12 月

[言語学者トゥルベツコイの「言語連合」の考え方の解説紹介]

11. 「大きな森の小さな家」 神奈川大学言語研究センター NEWS LETTER No.12 p.6 平成 4 年 11 月

[ロシア語の「指小・愛称形」について風土・文化面から見たエッセイ]

12. 「第二外国語のすすめ・ロシア語（多民族国家ロシアの共通語）」 『英語教育』 1997 年 5 月号 pp.28-29 大修館書店 平成 7 年 5 月

[ロシア語についてその特徴を地域・風土を背景に紹介したもの]

13. «Русский язык конца XX столетия (1985-1995)», Москва, 1996 (書評) 『ロシア語ロシア文学研究』 第 29 号 pp.163-166 日本ロシア文学会 平成 9 年 10 月

14. 長縄光男・沢田和彦編『異郷に生きる—来日ロシア人の軌跡』(書評) 『窓』 117 号 pp.56-57 ナウカ 2001 年 7 月

15. 藤沼貴編『研究社和露辞典』(書評) 『ロシア語ロシア文学研究』 第 33 号 pp.136-137 日本ロシア文学会 平成 13 年 10 月